

# 金久保内出遺跡の発掘調査の足跡

令和4年度から続く金久保内出遺跡の発掘調査では、縄文時代、古墳～平安時代、中世、近世の遺構・遺物が見つかりました。また縄文時代後期では、土壙が2基確認されました。神流川扇状地の末端において、これまで確認されなかつた縄文時代における人々の生活の痕跡が確認されました。続く古墳時代から平安時代には、148軒もの竪穴住居跡が確認され、竪穴住居跡の建替えが繰り返された後、約300年の間集落が形成されました。

また竪穴住居跡の分布は、第3・4地点の古墳時代から奈良時代の一群と、第1・7・8地点の奈良時代から平安時代の一群に分けられます。集落が北から南へ変遷した様子が確認されました。

中世では、南北朝時代の掘立柱建物跡や井戸跡が確認されました。近接する金窪城（金窪館）跡が造られた伝承時期と近いものです。城跡との関連は不明ですが、当時の様相を明らかにする遺構と考えられます。そして近世に入ると、土地の性格が墓域に変わったことが確認されました。

このように、上里町内では発見例が少ない縄文時代の建物群、近世の大規模集落、中世の遺構と遺物、古墳時代から平安時代の大規模集落、中世の墓域など、長い期間にわたった人々の暮らしが明らかになってきました。これらは、上里町の歴史を考えるうえで、貴重な発見です。



① 第67号竪穴住居跡(古墳時代)



② 第144号土壙(古墳時代)



③ 第1511号土壙(古墳時代)



④ 第57号竪穴住居跡(古墳時代)



⑤ 第418号土壙(中世)



⑥ 第513号土壙出土板碑(中世)



⑦ 第16号竪穴住居跡(奈良時代)



⑧ 第13号竪穴住居跡(平安時代)



⑨ 第7地点



⑩ 第8地点



⑪ 第5地点



⑫ 第6地点



⑬ 第2地点



⑭ 第3地点



⑮ 第5地点



⑯ 第4地点



⑰ 第6地点



⑱ 第7地点



⑲ 第8地点



⑳ 第9地点



㉑ 第10地点



㉒ 第11地点



㉓ 第12地点



㉔ 第13地点



㉕ 第14地点



㉖ 第15地点



㉗ 第16地点



㉘ 第17地点



㉙ 第18地点



㉚ 第19地点



㉛ 第20地点



㉜ 第21地点



㉝ 第22地点



㉞ 第23地点



㉟ 第24地点



㉟ 第25地点



㉟ 第26地点



㉟ 第27地点



㉟ 第28地点



㉟ 第29地点



㉟ 第30地点



㉟ 第31地点



㉟ 第32地点



㉟ 第33地点



㉟ 第34地点



㉟ 第35地点



㉟ 第36地点



㉟ 第37地点



㉟ 第38地点



㉟ 第39地点



㉟ 第40地点



㉟ 第41地点



㉟ 第42地点



㉟ 第43地点



㉟ 第44地点



㉟ 第45地点



㉟ 第46地点



㉟ 第47地点



㉟ 第48地点



㉟ 第49地点



㉟ 第50地点



㉟ 第51地点



㉟ 第52地点



㉟ 第53地点



㉟ 第54地点



㉟ 第55地点



㉟ 第56地点



㉟ 第57地点



㉟ 第58地点



㉟ 第59地点



㉟ 第60地点



㉟ 第61地点



㉟ 第62地点



㉟ 第63地点



㉟ 第64地点



㉟ 第65地点



㉟ 第66地点



㉟ 第67地点



㉟ 第7地点



㉟ 第8地点



㉟ 第6地点



㉟ 第5地点

## 第8地点

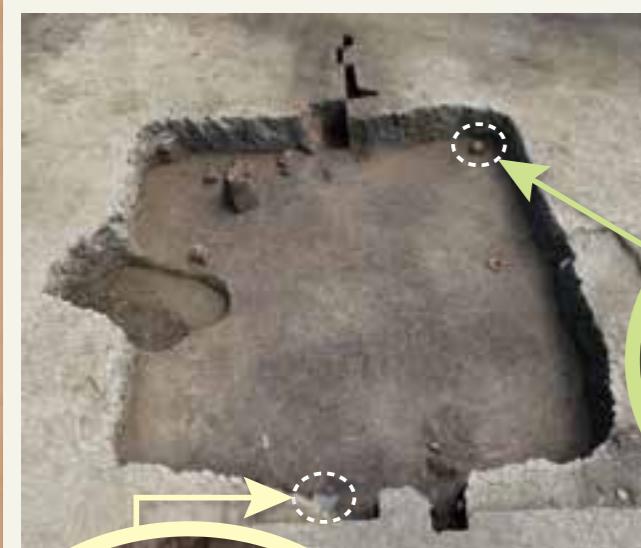
### ～古代の竪穴住居跡～

調査中のものを含め、奈良時代と考えられる竪穴住居跡が、6軒見つかっています。



#### 第206号竪穴住居跡

この住居跡は深さが80cmもあります。床面近くから、土師器の壊や甕、須恵器の壊が出土しています。



#### 第205号竪穴住居跡 土師器壊

土師器の壊や、須恵器壊の蓋が出土しました。これらの遺物の特徴から、住居跡の時期は8世紀前半と考えられます。

須恵器壊蓋



#### 凡例

- …奈良時代以前
- …奈良時代（8世紀代）
- …中世以降

## 第1023号土壙



遺構の形状から火葬施設と考えられます。長時間火を焚いたため壁は赤く焼け、中には大量の炭化物が堆積していました。炭化物層の中にはごく少量の骨片と、錢貨が2枚含まれていました。

## 第7地点

### ～中世の遺構～

ほったばしらたてものあと どこうば  
掘立柱建物跡や土壙墓など  
が検出されました。



#### 第1012号土壙

人骨が検出された土壙墓です。肘と膝を曲げた屈葬の状態で埋葬され、胸元には六文銭が副葬されました。

第7地点では、第1003号土壙からも人骨が見つかっています。



#### 第14号掘立柱建物跡

桁行2間×梁行2間の掘立柱建物跡です。柱穴の形状や覆土（埋まつた土）の様子から、中世の建物跡と考えられます。



#### 第1017号土壙

中世後期から江戸時代初頭の土壙です。染付の皿が出土しました。